

平成16年度独立行政法人国立美術館年度計画

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 1 業務運営の一層の効率化を進めるため、平成15年度に引き続き、次のような措置を講ずる。

引き続き人事記録，給与計算等の人事事務，保険契約等の会計事務，保険請求事務等の共済事務及び情報公開事務の一元化を通して，業務の効率化を図る。

各館の会計処理のための会計システムについて，同じシステムを使用している他の独立行政法人と共同でプログラムの修正を図り，事務の効率化を進めるとともに，複数法人で発注することにより，経費の節減を図る。

昨年度の電気の契約電力の見直しによる基本料金の引き下げに続き，空調設備（クーリングタワー）からの蒸発水量を把握，申請することにより下水道料金の縮減を図る。また，昨年度に引き続き節水，節電による省エネルギーの推進，配付資料等の両面コピー化によりコピー用紙及び廃棄物の減量化推進，古紙の再利用によるリサイクル及びLANの活用によるペーパーレス化を推進する。

講堂・セミナー室等の活用については，教育普及事業の活発化，外部の利用促進に努め，講堂等の使用率の向上を図る。

引き続き会場管理業務，設備管理業務，清掃業務等の外部委託を積極的に実施し，業務運営の効率化を図る。

設備備品等の購入及び会場管理業務等の外部委託業務のうち，一般競争入札に相応しい業務については，すでに一般競争入札を実施しているが，平成16年度においては，設備備品等の購入においてさらに積極的に推進する。

計画的業務遂行を進めるとともに，職員の健康管理及び超過勤務時間縮減のため，毎週水曜日を定時退館日として設定する。

- 2 外部の有識者による評価及び職員の意識改善

運営委員会，評議員会及び外部評価委員会による業務の実績に関する評価を組織，事務，事業等の改善に反映させる。

会計・人事等の研修を通じて職員の意識改革と資質の向上を図り，併せて組織の活性化を図る。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 1 収集・保管

(1) 中期計画に基づき，次のとおり美術作品等を購入する。

(東京国立近代美術館)

<本館・工芸館>

近代日本美術史上の重要作品の収集を続けると同時に，20世紀の主要な国外作家の作品の拡充にも努める。

国内外の現代美術の秀作を収集する。

近代写真史上の重要作品の系統的収集を進める。

明治，大正，昭和初期の工芸作品を拡充し，戦後の代表作を系統的に収集する。
近代デザインの形成期である 19 世紀後半から 1930 年代頃までのデザイン
作品を拡充する。

<フィルムセンター>

ロシア所在の戦前の日本映画，過去 3 年間に逝去した映画人の代表作及び企画上
映に必要となる作品を収集する。

散逸が懸念される映画フィルムや劣化が著しいために緊急に修復を必要とする
映画フィルムを優先的に収集する。

デジタル媒体を活用して映画フィルムの複製及び修復・復元を図る。

我が国における映画文化保存のために戦後の日本劇映画の公開された未収集作
品の内，1940 年代から 50 年代の映画フィルムを収集する。

(京都国立近代美術館)

我が国の近・現代において生み出された美術，工芸，建築，デザイン，写真等で
主として美術・工芸について，近代日本美術史の骨格を形成する代表作及び各時
期において重要な位置を占める記念的作品，近代美術史に組み込まれていくこ
となる現代美術の秀作を積極的に収集すると共に，優れた写真作品の収集にも努
める。また，併せて各ジャンルの欠落部分を補い所蔵作品を充実させる。

同館が京都に設置されている立地条件から，京都を中心とする関西ないし西日本
に重点を置き，地域性に立脚した所蔵作品の充実を図る。

(国立西洋美術館)

中世末期から 20 世紀初頭に至る西洋美術の流れの概観が可能となるように次の
とおり収集する。

西洋美術における重要な流れを示し得る近世ヨーロッパ絵画等の収集

各時代を展望し得るヨーロッパ版画の系統的収集

(国立国際美術館)

日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため主として，次のとおり収
集する。

1945 年以降の日本の現代美術の系統的収集

1945 年以降の欧米の現代美術の系統的収集

国際的に注目される国内外の同時代の美術の収集

(2) 寄贈・寄託品の積極的な受け入れ及び活用を図る。

(3) 24 時間空調等による作品の保存管理及び館内各所の環境モニターを実施する。

(4) 緊急に必要とする収蔵品のうち，緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修
復を行う。

(5) 国内外の美術館等に対し，修復保存に関する協力と普及の推進を図る。

2 公衆への観覧

(1) 中期計画に基づき各館において展覧会や企画上映等を次のとおり実施する。

(東京国立近代美術館)

< 本館 >

[展覧会]

「国吉康雄展」

期間：平成16年3月23日(火)～5月16日(日)(50日間(うち平成16年度41日間))

共催：NHK, NHKプロモーション

目標入館者数：5万2千人(うち平成16年度中は, 4万3千人。)

「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」展

期間：平成16年6月8日(火)～7月25日(日)(42日間)

共催：ブラジルコネクト, 京都国立近代美術館

目標入館者数：1万1千人

「琳派・RIMPA」展

期間：平成16年8月21日(土)～10月3日(日)(43日間)

共催：東京新聞

目標入館者数：13万1千人

「草間彌生」展

期間：平成16年10月26日(火)～12月19日(日)(48日間)

目標入館者数：2万5千人

特集展示「木村伊兵衛」展

期間：平成16年10月9日(土)～12月19日(日)(62日間)

会場：ギャラリー4

目標入館者数：2万6千人

「痕跡 - 戦後美術における身体と思考」

期間：平成17年1月12日(水)～2月27日(日)(41日間)

共催：京都国立近代美術館

目標入館者数：1万1千人

「ゴッホ」展

期間：平成17年3月23日(水)～5月22日(日)(53日(うち平成16年度8日間))

共催：NHK, 東京新聞

目標入館者数：28万5千人(うち平成16年度中は, 4万3千人。)

本館常設展「近代日本の美術」展 他 5回陳列替え

目標入館者数：16万8千人

目標入館者数計：45万8千人

< 工芸館 >

「現代工芸への視点」展

期間：平成16年9月18日(土)～12月5日(日)(68日間)

目標入館者数：1万1千人

「人間国宝の日常のうつわ もうひとつの富本憲吉」展

期間：平成16年12月11日(土)～2月27日(日)(65日間)

目標入館者数：1万人

「河野鷹思のデザイン」展

期間：平成17年1月12日(水)～2月27日(日)(41日間)

会場：本館ギャラリー4

目標入館者数：9千人

工芸館常設展「近代日本の工芸」展 他 3回陳列替え

目標入館者数：2万9千人

目標入館者数計：5万9千人

本館・工芸館目標入館者総数51万6千人

<フィルムセンター>

[上映会]

「キューバ映画選集」

期間：平成16年4月6日(火)～4月25日(日)(18日間)

目標入館者数：3千5百人

「アジア映画祭 豊穡と多様」

期間：平成16年4月27日(火)～6月27日(日)(54日間)

共催：福岡市総合図書館

目標入館者数：1万1千人

「日本アニメーション映画史」

期間：平成16年7月6日(火)～8月29日(日)(48日間)

目標入館者数：5千人

「映画女優 高峰秀子」

期間：平成16年9月3日(金)～11月19日(金)(67日間)

目標入館者数：2万人

「内田吐夢監督特集」

期間：平成16年11月20日(土)～28日(日)(8日間)

共催：特定非営利活動法人東京フィルメックス実行委員会

目標入館者数：2千5百人

「逝ける映画人を偲んで 2002～2003」(1)

期間：平成16年12月7日(火)～12月26日(日)(18日間)

目標入館者数：6千人

「シネマの冒険 闇と音楽 2005」

期間：平成17年1月5日(水)～1月16日(日)(11日間)

目標入館者数：1千5百人

「逝ける映画人を偲んで 2002～2003」(2)

期間：平成17年1月18日(火)～2月13日(日)(24日間)

目標入館者数：8千人

「フィルムは記録する 2005：日本の文化・記録映画作家たち」

期間：平成17年2月18日(金)～3月27日(日)(33日間)

目標入館者数：5千5百人

上映会の目標入館者数計 6万3千人

[展覧会]

「岡本忠成アニメーションの世界」(併設：展覧会 映画遺産)

期間：平成16年4月6日(火)～8月29日(日)(120日間)

目標入館者数：4千人

「高峰秀子展」(併設：展覧会 映画遺産)

期間：平成16年9月3日(金)～平成17年3月27日(日)(161日間)

目標入館者数：5千5百人

展覧会の目標入館者数計 9千5百人

上映会・展覧会の目標入館者総数 7万2千5百人

(京都国立近代美術館)

「東松照明の写真 1972 - 2002」(さくら, 沖縄マンダラ, 長崎マンダラ, 京まんだら, インターフェイス, 曼陀羅/インターフェイス, 計6回)(小企画展として4階常設展示場で開催)

期間：平成15年4月8日(火)～平成16年4月4日(日)(178日間(うち平成16年度4日間))

目標入館者数：5万5千人(うち平成16年度中は, 1千人)

「彫刻家 堀内正和の世界展」

期間：平成16年3月13日(土)～4月18日(日)(32日間(うち平成16年度16日間))

目標入館者数：1万人(うち平成16年度中は, 6千人)

「COLORS ファッションと色彩 - VIKTOR & ROLF & KCI」

期間：平成16年4月29日(木)～6月20日(日)(47日間)

共催：京都服飾文化研究財団

目標入館者数：3万4千人

「近代日本画壇の巨匠 横山大観展」

期間：平成16年7月2日(金)～8月8日(日)(33日間)

共催：朝日新聞社

目標入館者数：7万2千人

「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」

期間：平成16年8月17日(火)～9月20日(月・祝)(31日間)

共催：ブラジルコネクト, 東京国立近代美術館

目標入館者数：1万人

「没後25年 八木一夫展」

期間：平成16年9月28日(火)～10月31日(日)(30日間)

共催：日本経済新聞社

目標入館者数：1万2千人

「ジャパニーズ・モダン - 剣持勇とその世界 - 展」

期間：平成16年10月8日(金)～11月3日(水・祝)(23日間)

目標入館者数：6千人

「痕跡 - 戦後美術における身体と思考」

期間：平成16年11月9日(火)～12月19日(日)(36日間)

共催：東京国立近代美術館

目標入館者数：1万2千人

「草間彌生展」

期間：平成17年1月6日(木)～2月13日(日)(34日間)

共催：東京国立近代美術館

目標入館者数：1万2千人

「田中一光展」

期間：平成17年2月22日(火)～4月3日(日)(36日間(うち平成16年度33日間))

共催：京都新聞社

目標入館者数：1万6千人(うち平成16年度中は、1万5千人)

常設展「近代の美術・工芸・写真」(306日間) 10回陳列替え

目標入館者数：13万5千人

目標入館者数計：31万5千人

(国立西洋美術館)

「ヴァチカン美術館所蔵 古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」

期間：平成16年3月2日(火)～5月30日(日)(79日間(うち平成16年度53日間))

共催：NHK, NHK プロモーション

目標入館者数：20万2千人(うち平成16年度中は、13万5千人。)

「聖杯 - 中世の金工美術」

期間：平成16年6月29日(火)～8月15日(日)(43日間)

目標入館者数：2万人

「マティス展」

期間：平成16年9月10日(金)～12月12日(日)(81日間)

共催：読売新聞社, NHK, NHK プロモーション

目標入館者数：30万2千人

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥールとその時代」

期間：平成17年3月7日(月)～5月29日(日)(74日間(うち平成16年度22日間))

共催：読売新聞社

目標入館者数：10万人(うち平成16年度中は、3万6千人。)

常設展

「ルネッサンス以降のヨーロッパ近世絵画」

「近・現代絵画と彫刻」

版画作品展「ファウストとハムレット：ドラクロワ - ロマン派石 版画の魅力
(16年春)」

版画作品展「オランダ マニエリスム版画展(16年秋)」

版画作品展「マックス・クリンガー版画展(17年春)」

Fun with Collection '04「コルビュジエ(16年夏)」

目標入館者数：24万3千人

目標入館者数計：73万6千人

(国立国際美術館)

「鏡の送り返し マルセル・デュシャンと20世紀美術」

期間：平成16年11月3日(水)～12月19日(日)(41日間)

共催：朝日新聞社

目標入館者数：3万人

「中国国宝展」

期間：平成17年1月18日(火)～3月27日(日)(60日間)

共催：朝日新聞社

目標入館者数：6万6千人

「オノデラユキ写真展」

期間：平成17年2月5日(土)～4月17日(日)62日間(うち平成16年度47
日間))

目標入館者数：5万6千人(うち平成16年度中は、4万8千人。)

常設展「現代の美術」 1回陳列替え

目標入館者数：14万8千人

目標入館者数計：29万2千人

(2) 全国の公私立美術館等と連携して、次の地方巡回展及び優秀映画鑑賞推進事業を実施する。

国立美術館巡回展

ア.「国立美術館巡回展」

会場：新津市美術館(新潟県)

国立美術館担当館：京都国立近代美術館

イ.「国立美術館巡回展」

会場：砺波市美術館(富山県)

国立美術館担当館：京都国立近代美術館

各館の巡回展

ア. 京都国立近代美術館巡回展

a.「京都国立近代美術館所蔵日本画巡回展」

期間：平成16年4月24日(土)～6月6日(日)

会場：徳島県立近代美術館

b.「京都国立近代美術館所蔵日本画巡回展」

期間：平成16年7月30日（金）～8月29日（日）

会場：島根県立美術館

c. 「京都国立近代美術館所蔵日本画巡回展」

期間：平成16年10月16日（土）～11月28日（日）

会場：茨城県天心記念五浦美術館

d. 「京都国立近代美術館所蔵日本画巡回展」

期間：平成17年1月初旬～2月13日（日）

会場：北九州市立美術館

イ. 国立国際美術館巡回展

a. 「美術ってなーに 大阪・国立国際美術館コレクション 20世紀美術への招待 - セザンヌ, ピカソからウォーホルまで -」展

期間：平成16年4月2日（金）～5月16日（日）

会場：八代市立博物館未来の森ミュージアム

b. 「美術ってなーに 大阪・国立国際美術館コレクション 20世紀美術への招待 - セザンヌ, ピカソからウォーホルまで -」展

期間：平成16年5月21日（金）～7月4日（日）

会場：大分市美術館

c. 「美術ってなーに 大阪・国立国際美術館コレクション 20世紀美術への招待 - セザンヌ, ピカソからウォーホルまで -」展

期間：平成16年7月9日（金）～8月15日（日）

会場：岡山県立美術館

優秀映画鑑賞推進事業

東京国立近代美術館フィルムセンターにおいて文化庁との共催により各地の公立文化施設と連携・協力し、20プログラム（4作品1プログラム）を巡回・上映する。

期間：平成16年7月1日（木）～平成17年3月16日（水）

会場：全国130会場以上

（3）各館で行う展覧会については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入場者数の状況等を踏まえて入館者数について目標を設定し、その達成に努める。

（4）常設展の充実をアピールしながら、広報にも努め、その社会的認知度の向上に努める。

（東京国立近代美術館）

<本館>

計10回の小、中規模の特集企画を行い、その広報にも努める。

写真作品のプリントスタディー制度の発足を準備する。

（京都国立近代美術館）

企画展との関連及び常設単独での特集企画を行い、その広報にも努める。

（国立西洋美術館）

テーマを設けた版画コレクション展を春期及び秋期に、また、所蔵作品を中心に常設展の作品を活用し、特定のテーマに沿って紹介するプログラム「Fun with Collection」を夏期に開催し、子どもから大人、さらに研究者や専門家までの幅広い層を対象とした展開の充実を図り、その広報にも努める。

(国立国際美術館)

代表的な所蔵作品の展示に努め、常設展の充実を図る。

所蔵作品選を刊行し、所蔵作品の広報に努める。

(5) それぞれの館の収蔵品について、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施する。

(6) 入場者に対するアンケート調査を実施し、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会等に反映させる。

3 調査研究

(1) 中期計画に基づき、次の調査研究を計画的に実施する。

(東京国立近代美術館)

< 本館・工芸館 >

「日本文化の多重構造 - 近代日本美術に見る多文化的要素の系譜」(文部科学省科学研究費補助金) 3 年目

国吉康雄に関する研究(愛知県美術館・富山県立近代美術館との共同研究)

ブラジルの近現代美術に関する調査研究(京都国立近代美術館との共同研究)

日本美術における「琳派的なるもの」の調査研究

草間彌生に関する調査研究(京都国立近代美術館・広島市現代美術館・熊本市現代美術館・松本市美術館との共同研究)

木村伊兵衛に関する調査研究

V. ファン・ゴッホに関する調査研究(愛知県美術館ほかとの共同研究)

小林古径に関する調査研究(京都国立近代美術館との共同研究)

富本憲吉における図案と実作についての調査研究

現代工芸における制作の特質についての調査研究

戦後プロダクトデザインの成立と展開についての調査研究

< フィルムセンター >

国内の日本映画の所在調査

映画製作者及び国内同種機関の協力により、存在が確認できていない昭和 20 年代から 30 年代の映画フィルムの所在調査を行う。

映画文化に関する国際交流

国際フィルムアーカイブ連盟(F I A F)が実施する映画保存等に関する調査研究プロジェクトに参加するとともに、会員間のネットワークを活用して、映画保存及び復元等に関する調査研究を行う。

(京都国立近代美術館)

堀内正和に関する調査研究(神奈川県立近代美術館との共同研究)

ファッションと色彩についての総合的研究(K C I との共同研究)

横山大観についての調査研究

ブラジルの近現代美術についての調査研究（東京国立近代美術館との共同研究）

八木一夫と現代陶芸についての調査研究（岐阜県現代陶芸美術館ほかとの共同研究）

剣持勇とインテリアデザインについての総合的研究（松戸市教育委員会美術館準備室との共同研究）

戦後美術の世界的動向についての調査研究

草間彌生に関する調査研究（東京国立近代美術館・広島市現代美術館・熊本市現代美術館・松本市美術館との共同研究）

田中一光とグラフィックデザインについての総合的研究

村上華岳についての調査研究

小林古径についての調査研究（東京国立近代美術館との共同研究）

他の美術館等における調査研究に対する協力

（国立西洋美術館）

旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究

中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究

西洋美術作品の保存修復に関する調査研究

美術館教育に関する調査研究

美術館情報資料に関する調査研究

18世紀における「古代の受容」に関する調査研究

中世金工美術及び、中世美術に関する調査研究

マティスと20世紀絵画に関する調査研究

ジョルジュ・ド・ラ・トゥールと17世紀フランス絵画に関する調査研究

ドラクロワとロマン派石版画に関する調査研究

オランダ・マニエリスム版画に関する調査研究

マックス・クリンガー版画に関する調査研究

「16～17世紀西欧における版画出版と古代の受容」(科学研究費)2年目

（国立国際美術館）

日本の現代美術に関する調査研究

海外の現代美術に関する調査研究

美術館教育に関する調査研究

マルセル・デュシャンに関する調査研究

オノデラユキに関する調査研究

美術家・森村泰昌によるフェルメール「画家のアトリエ」再現に関する調査研究

大阪における近代商業デザインの調査研究(科学研究費補助金)2年目

「戦後関西に於ける前衛美術運動 - その包括的研究 - 」(平成16年度科学研究費補助金申請中)

（2）客員研究員を招聘し、調査研究活動を推進する。

東京国立近代美術館本館において1名を招聘し、次の活動を行う。

ア．プリントスタディー制度発足に向けての調査研究

イ．写真作品の系統的分類、整理および保存に関する調査研究

東京国立近代美術館工芸館において1名を招聘し、次の活動を行う。

ア．普及広報、教育活動のあり方の調査研究

イ．作品に触れる鑑賞教室と展示解説を中心としたボランティア活動の調査研究

東京国立近代美術館フィルムセンターにおいて3名を招聘し、次の活動を行う。

ア．所蔵映画フィルムの内、戦前期の日本ニュース映画のデータ分析とカタログ化に関する調査研究

イ．所蔵映画資料の内、初期の日本アニメーションに関する調査研究

ウ．アジア諸国の映画保存及びフィルムアーカイブに関する調査研究

国立西洋美術館において3名を招聘し、次の活動を行う。

ア．美術館教育に関する調査研究

イ．広報事業等に関する指導・助言

国立国際美術館において1名を招聘し、次の活動を行う。

ア．紙支持体作品の保存に関する調査研究

イ．現代美術作品の保存に関する調査研究

(3) 大学院との連携協力

国立西洋美術館において、大学院（東京大学大学院人文社会系研究科）と連携して西洋美術に関する人材を養成する。

(4) 各館の調査研究の成果については、研究紀要、図録への論文発表等によって公表する。

4 教育普及

(1) 国内外の美術館等と図書を交換することにより、資料の積極的収集を図る。

(2) 広く公衆のニーズに応えるため、収蔵作品のデータベース化を推進する。平成16年度は、特に次の事業を実施する。

国立美術館として4館の所蔵作品の共通データベース化を図るため、美術作品の種別の統一化等の検討を進める。

文化庁が行う「文化遺産オンライン構想」に参加し、作品データ等を提供する。

(3) 情報コーナー、アトライブラリー、資料閲覧室等による入場者サービスに努める。

平成16年度は、特に次の事業を実施する。

東京国立近代美術館本館においては、ビデオルーム等で上映するビデオを更新する。

東京国立近代美術館フィルムセンターにおいては、利用者の意見を踏まえ、図書室の開室日をこれまでの火曜日から金曜日に加え、土曜日も開室するとともに、閉室時間を30分繰り下げ午後6時30分までとする。

国立西洋美術館においては、所蔵図書データをインターネット上で公開し、ホームページでの検索を可能とする。

国立国際美術館においては、新館に新たに設置される情報コーナーに刊行物その他関連資料等を配置する。

(4) 児童生徒を対象とした教育普及事業に積極的に取り組む。

平成16年度は、特に次のような事業を実施する。

(東京国立近代美術館)

<本館・工芸館>

学校からの要請による見学(ギャラリー・トーク他)の受け入れの促進

ホームページ内の「こどものページ」の掲載作品数の拡充

本館においてボランティア(ガイドスタッフ)による子どもを対象とした鑑賞教室とワークショップ付きの「こどもミュージアム」プログラムを実施

工芸館において、子どもを対象とした鑑賞ワークシートを作成するとともに、親と子を対象としたボランティア(ガイドスタッフ)による鑑賞教室を実施

<フィルムセンター>

夏休み期間中に、「こども映画館：2004年の夏休み」を実施(6日間)

春休み期間中に、「こども映画館：2005年の春休み」を実施(6日間)

相模原市内の小・中学校からの要請を受け、フィルムセンター相模原分館において、「小・中学生向け上映会」を実施(5回)

(京都国立近代美術館)

小学生を対象としたワークショップの実施(2回)

親と子(小学生)を対象とした観賞教室の実施(1回)

中学生を対象とした「生き方探究・チャレンジ体験」の実施(年間5校程度)

(国立西洋美術館)

子どもから楽しめる美術展として、所蔵作品を中心に常設展の作品を活用し、特定のテーマに沿って紹介するプログラムを開催 Fun with Collection '04「コルビュジエ」

期間：平成16年6月29日(火)～8月31日(日)(56日間)(予定)

子どもから楽しめる美術展 Fun with Collection '04 に関連した「創作・体験プログラム」を実施(2回)

小・中学校教員を対象として、展覧会の趣旨や作品について説明し展覧会を楽しんでもらうための観賞プログラムを実施

(国立国際美術館)

小・中学生を対象としたワークショップの実施(夏休み及び春休み期間中に4回)

小・中学生を対象としたビデオ上映の実施(3回)

(5) 次の講演会等を実施する。

(東京国立近代美術館)

<本館・工芸館>

(本館企画展)

「国吉康雄」展に関する講演会(3回)

「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」展に関する講演会(10回)、ギャラリート

ーク(4回)

「琳派・R I M P A」展に関する講演会(2回)

「草間彌生」展に関する講演会(3回), ギャラリートーク(3回)

「木村伊兵衛」展に関するギャラリートーク(2回)

「痕跡 - 戦後美術における身体と思考」展に関する講演会(2回)

(本館常設展)

研究員による本館常設展の「ハイライト・ツアー」(無料観覧日である毎月第1日曜日)及び「フライデー・トーク」(毎月1回)

ガイドスタッフ(ボランティア)による, 本館常設展のギャラリーガイド(毎日)

(工芸館企画展)

「現代工芸への視点」展に関するギャラリートーク(10回)

「河野鷹思のデザイン」展に関するギャラリートーク(4回)

(工芸館常設展)

工芸館常設展に関するギャラリートーク(19回)

工芸館においてガイドスタッフ(ボランティア)による, 展示解説と類似作品に触れる鑑賞教室(6月を目途に導入)

<フィルムセンター>

上映会に関する講演会(1回)

(京都国立近代美術館)

「彫刻家 堀内正和の世界展」に関するシンポジウム(1回)

「COLORS ファッションと色彩」展に関する講演会(2回)

「横山大観展」に関する講演会(2回)

「ブラジル: ボディ・ノスタルジア」展に関する講演会(1回)

「八木一夫展」に関する講演会(1回)

「ジャパニーズ・モダン」展に関する講演会(1回)

「痕跡 - 戦後美術における身体と思考」展に関する講演会(2回)

「草間彌生展」に関する講演会(1回)

「田中一光展」に関する講演会(1回)

(国立西洋美術館)

「ヴァチカン美術館所蔵 古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」に関する講演会(1回), スライドトーク(5回)

「聖杯 - 中世の金工美術」に関する講演会(2回), ギャラリートーク(4回)

「マティス展」に関する講演会(3回), スライドトーク(6回)

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥールとその時代」に関する講演会(1回), スライドトーク(1回)

展覧会に関連する音楽プログラム(1回)

(国立国際美術館)

「鏡の送り返し マルセル・デュシャンと20世紀美術」展に関する講演会(1回), ギャラリー・トーク(1回)

「オノデラユキ写真展」に関する講演会（１回）、ギャラリー・トーク（１回）
現代美術に関するビデオ等上映（３回）

（６）美術館関係者等を対象とした、次の研修事業を実施する。

美術館の要請に応じ、国立国際美術館において、キュレーター実務研修を実施
東京国立近代美術館フィルムセンターにおいて、昨年度に引き続き 映画製作専門家養成講座を実施

国立西洋美術館及び国立国際美術館において、昨年度に引き続きインターンシップを実施

（７）他の機関が実施する次の研修への協力を実施する。

京都国立近代美術館において、文化庁と共催により「美術館・歴史博物館学芸員専門研修会」を実施

大学生の学芸員資格取得のための博物館実習

（８）研究成果を踏まえて、次の出版事業等を行う。

（東京国立近代美術館）

「平成１５年度年報」

「東京国立近代美術館概要」

「東京国立近代美術館研究紀要」

「ギャラリーガイド」英語版（日本語版については平成１４年度に刊行済）

展覧会、企画上映に伴う図録等の刊行物の発行

「現代の眼」 ６回発行

展覧会案内（カレンダー）（和・英） １回発行

「NFC ニュースレター」 ６回発行

「NFC カレンダー」 企画毎発行

（京都国立近代美術館）

「平成１５年度年報」

「京都国立近代美術館概要」

展覧会に伴う図録の発行

美術館ニュース「視る」 ６回発行

展覧会カレンダー ３回発行

（国立西洋美術館）

「国立西洋美術館年報No. 38」

「国立西洋美術館研究紀要No. 9」

「国立西洋美術館要覧」

展覧会に伴う図録の発行

展覧会に伴う小・中学生向け解説パンフレット「ジュニアパスポート」の発行

「国立西洋美術館ニュース（展示予定表掲載）」４回発行

「独立行政法人国立美術館国立西洋美術館リーフレット」

（国立国際美術館）

「平成１５年度年報」

「国立国際美術館概要」
展覧会に伴う図録の発行
展覧会に伴うリーフレットの発行
「ジュニアガイドブック」 1回発行
「月報」 12回発行
展覧会案内 1回発行
所蔵作品目録
所蔵作品選

(9) 法人のホームページ及びそれぞれの館のホームページを積極的に活用して、広く公衆への普及及び広報を行う。

平成16年度は、特に次の事業を実施する。

(東京国立近代美術館)

<本館・工芸館>

英文ホームページを拡充させ、特に美術館概要については、仏・独・中・韓国語版も作成する。

企画展の割引入場引換券を掲載する。

<フィルムセンター>

平成15年度に構築した映画フィルム検索システムへデータの集積を図るとともに、ホームページでの検索・公開のための準備を行う。

(京都国立近代美術館)

京都国立近代美術館所蔵品検索(試行版)を充実する。

・現在の文字情報に加え、画像についても順次掲載の準備を進める。

・現在の和文に加え、英文も併記するよう準備を進める。

展覧会図録を寄贈している、北隣の京都府立図書館の蔵書リストを当館ホームページに掲載する。

(国立西洋美術館)

コレクション、展覧会情報、講演会・スライドトーク等のイベント、交通・利用案内、館内施設案内の掲載及び適時更新を図る。

海外からのアクセスに対応した英語版ホームページを整備する。

視覚障害者向け音声案内機能、携帯電話用(iモード等)コンテンツ等の作成による、広報機能を充実する。

インターンシップ募集等の事業案内情報を掲載する。

自主企画展の割引入場引換券を掲載する。

所蔵図書データを公開する。

(国立国際美術館)

新館開館に向けた動きや展覧会情報、教育普及事業など、館の活動状況の積極的な広報のため、ホームページの内容を充実させるとともに、デザインを一新する。

(10) 次のようにボランティア活動を実施する。

東京国立近代美術館本館においては、平成15年5月から実施している所蔵作品

の解説ボランティア（ガイドスタッフ）の活動の充実を図るとともに、小・中学生向けの鑑賞プログラムを導入する。

東京国立近代美術館工芸館においては、平成16年6月を目途として活動を始める。

京都国立近代美術館においては、「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」を主催する京都市教育委員会等との連携による、ボランティアを受入れる。

国立西洋美術館においては、昨年度の検討を踏まえボランティアの受入れ及び研修を実施し、平成16年11月を目途として活動を開始する。

国立国際美術館においては、昨年度に引き続き、学生ボランティアを受入れる。

(11) 企業との連携等について検討を行う。

企業とのタイアップによる前売券の発券、企業等が発行する印刷物への展覧会情報の掲載等、企業との連携を進める。

(東京国立近代美術館)

<本館>

「Weekly ぴあ」(発行：ぴあ(株))、ホームページ「美術館.com」(運営：(株)日本スタデオ)に展覧会情報を掲載。

「メトロニュース」(発行：帝都高速度交通営団)に展覧会の情報を提供。併せてチケットプレゼントを実施。

特定の展覧会に際し、有力書店等にチラシの配布と広報紙への情報掲載を依頼。

京王エージェンシーに展覧会ポスター掲出を依頼。

本館、工芸館の最寄り駅である地下鉄東西線竹橋駅に展覧会ポスター等の掲出を依頼。

助成金により、所蔵品ギャラリーフロアガイド外国語版を作成。外国人観覧者へ配布。

<工芸館>

「月刊タイム銀座」、「茶道誌淡交」に所蔵作品を紹介。また「I CLUB」に展覧会情報を掲載。

(京都国立近代美術館)

「JAF Mate」(発行：(社)日本自動車連盟)、「PASS」(発行：朝日友の会)に展覧会情報を掲載。同時に割引を実施。

英・日併記の情報誌「MEET OSAKA」(発行：(財)大阪21世紀協会)に展覧会情報を掲載。外国人旅行者に対する普及広報を実施。

(国立西洋美術館)

地域企業と連携し、広報誌「うえの」(発行：上野のれん会)、「Weekly Matsuzakaya」(発行：上野松坂屋)に展覧会情報を掲載。

「日通ホームページ」、「日通だより(社内報)」及び「中央公論新社PRページ」に展覧会情報を掲載。また、日通社内向け前売券販売及び、ポスター・チラシ・割引券等の日通営業店店頭掲示を実施。

「Weekly ぴあ」(発行：ぴあ(株))に展覧会情報を掲載。

「平成16年度上野周辺散策マップ」(発行:JR東日本)に美術館情報を掲載。
助成金により広報印刷物を作成。観覧者へ配布。

(国立国際美術館)

新館開館後の展覧会について、前売券の発券を検討するとともに、各種広報媒体へ展覧会情報を掲載するなど、より積極的な普及広報を図る。

(12)他の機関が実施する次の事業への参加及び協力を実施する。

(東京国立近代美術館<本館・工芸館>・国立西洋美術館)

平成15年度に引き続き、東京の美術館・博物館等40館で実施する共通入館券事業「ぐるっとパス」に参加する。

平成15年度に引き続き、東京都が実施する外国人旅行者への観光事業「ウェルカムカード」に参加し、外国人旅行者に対して常設展の割引を行うことにより、我が国の近代美術及び西洋美術の振興と普及広報を図る。

(東京国立近代美術館)

<フィルムセンター>

文化庁が実施する優秀映画賞選考会に協力。

文化庁芸術祭主催公演「日本映画名作鑑賞会」に協力。

国内外で実施される各種映画祭に協力。

東京芸術大学が実施する映像・舞台芸術実験授業の内、映画に関する講座に協力。

(国立西洋美術館)

上野の山を芸術・文化の拠点として発展させることを目的とした台東区「上野の山文化ゾーン連絡協議会」へ参加し、上野地区の一体的な盛り上げを図る。

(13)友の会等活動の検討、実施

(東京国立近代美術館)

平成16年度は賛助会員制度を導入する。

(京都国立近代美術館)

平成15年度から実施している友の会の活動を平成16年度はさらに展開する。

(国立国際美術館)

平成16年度は友の会制度の導入を検討する。

5 新たな美術館施設の円滑な運営について

(国立国際美術館)

平成16年4月から所蔵作品の移転作業を開始するとともに、開館に向けた設備備品等の整備に努め、可能な時期に教育普及事業を実施しながら平成16年11月3日の新館開館を目指す。

6 新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)の設置準備

(1)設立準備室の事務体制の充実を図る。

(2)国立新美術館運営協議会において、開設準備に関する重要事項を検討する。

(3)各事業の具体的な準備業務については、次のとおり行う。

展覧会事業

- ・施設使用条件等を決定
- ・美術団体等への周知
- ・自主企画展及び共催展の開催に向けた準備業務

情報収集・提供事業

- ・国内外の展覧会に関する図録，記録等の資料の収集計画の作成
- ・図書情報システムの基本設計の作成
- ・国内外の展覧会に関する情報システムの基本設計の作成

教育普及事業

- ・展覧会の開催に併せた講演会，研修会，公開講座，シンポジウム等の検討
- ・より開かれた美術館を目指し，ボランティア，インターンの導入等の検討

管理運営方法

- ・効率的・効果的な管理運営方法の検討

7 その他の入館者サービス

- (1) 引き続きバリアフリー化，車椅子の提供等入館者サービスに努める。
- (2) 展示説明の見直しなど，鑑賞環境の充実に努める。また，作品リストの無料配付等を行う。

(東京国立近代美術館<本館・工芸館>)

本館において，次の事業を実施する。

ア「東京国立近代美術館ガイド（英語版）」

イ「展覧会案内（ミュージアム・カレンダー）」（日本語版）に加え，平成16年度は，英語版を作成・配付。

ウ「所蔵作品展フロアプラン（日本語・英語・フランス語・ドイツ語・中国語・韓国語）」を配付し，観光客を含めた観覧者へのサービスを拡充。

工芸館において，引き続き鑑賞カードを無料配布

工芸館の展示場，収蔵庫の拡充整備を検討。

- (3) 鑑賞機会の確保，観覧者の増加を目指すとともに，あわせて入館者サービスの向上を図るため，平成16年度は次のとおり実施する。

引き続き小・中学生の常設展料金の無料化を継続。共催展についても共催者の了解の得られたものは同様に実施。

引き続き高校生の常設展料金の減額措置を継続。

(東京国立近代美術館)

<本館・工芸館>

昨年度の企画展に続き，平成16年度も企画展に際して割引券を発行。

年末年始の休館日を12月29日から1月1日に短縮。また1月3日（月）を開館。

「国吉康雄展」の休館日である3月29日（月）及び4月5日（月）を臨時に開館。また，「琳派・RIMPA」展中の休館日を9月13日（月）のみに縮減。

常設展「近代日本の工芸」展の休館日である3月29日（月）及び4月5日（月）を臨時に開館。

<フィルムセンター>

引き続き平日夜の上映開始時間を午後7時に30分繰り下げる。

展示室の開室時間を午前11時から午後6時30分まで、30分繰り下げる。

(京都国立近代美術館)

「COLORS ファッションと色彩 - VIKTOR & ROLF & KCI」展の休館日である5月6日(木)を臨時に開館。

(国立西洋美術館)

企画展「聖杯 - 中世の金工美術」で割引券を発行。

「ヴァチカン美術館所蔵 古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」展の振替休館日である5月6日(木)を臨時に開館。

企画展「聖杯 - 中世の金工美術」の休館日である8月9日(月)を臨時に開館。

年始は1月2日(日)から開館。また、休館日である1月3日(月)を開館。

春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの間の開館時間について、午後5時の閉館時間を、午後5時30分まで延長。平成16年度は、企画展「聖杯 - 中世の金工美術」(6月29日開会)を目途に開始。

(5) 国立国際美術館においては、新館開館後の事業・業務の運営方針等の見直しを進め、さらなる入館者サービスの向上に努める。

(6) 引き続きフリーゾーンの活用、レストラン及びミュージアムショップを生かしたサービスの充実に努める。

予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

1 予算(年度計画の予算)

別紙のとおり。

2 収支計画

別紙のとおり。

3 資金計画

別紙のとおり。

その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

職員の研修計画

職員の意識向上を図るため、次の職員研修を実施する。

1) 新規採用者・転任者職員研修

2) 接遇研修

外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。

2 施設・設備に関する計画

施設・設備の整備を計画的に推進する。

1 予算(年度計画の予算)

平成16年度予算

(単位:百万円)

| 区 分 | 金 額 |
|------------------|-------|
| 収 入 | |
| 運営費交付金 | 5,158 |
| 施設整備費補助金 | 0 |
| 展示事業収入 | 310 |
| 計 | 5,468 |
| 支 出 | |
| 運営事業費 | 5,468 |
| 人件費 | 1,166 |
| 業務経費 | 4,302 |
| うち一般管理費 | 1,304 |
| うち展覧事業費 | 2,319 |
| うち調査研究事業費 | 210 |
| うち教育普及事業費 | 375 |
| うち国立新美術館設立等準備事業費 | 94 |
| 施設整備費 | 0 |
| 計 | 5,468 |

2 収支計画

平成16年度収支計画

(単位:百万円)

| 区 分 | 金 額 |
|------------------|-------|
| 費用の部 | 5,480 |
| 經常経費 | 5,480 |
| 人件費 | 1,166 |
| 業務経費 | 4,278 |
| うち一般管理費 | 1,280 |
| うち展覧事業費 | 2,319 |
| うち調査研究事業費 | 210 |
| うち教育普及事業費 | 375 |
| うち国立新美術館設立等準備事業費 | 94 |
| 減価償却費 | 36 |
| 収益の部 | 5,480 |
| 運営費交付金収益 | 5,134 |
| 展示事業等の収入 | 310 |
| 資産見返運営費交付金戻入 | 13 |
| 資産見返物品受贈額戻入 | 23 |

3 資金計画

平成16年度資金計画

(単位:百万円)

| 区 分 | 金 額 |
|---------------|-------|
| 資金支出 | 5,468 |
| 業務活動による支出 | 5,444 |
| 投資活動による支出 | 24 |
| 資金収入 | 5,468 |
| 業務活動による収入 | 5,468 |
| 運営費交付金による収入 | 5,158 |
| 展示事業等による収入 | 310 |
| 投資活動による収入 | 0 |
| 施設整備費補助金による収入 | 0 |